

歌仙 『初虹や』

- 発句 初虹や夢のはじまる駅に来て 真奈 晩春
- 脇 大地を蹴って走る若駒 笑 晩春
- 第三 なだらなる田打ちの畦の美しき 重陽 晩春
- 四 パステル絵の具ノート取出す 悦子 雑
- 五 暫くはおもひ思ひの月談義 重陽 三秋
- 六 秋の簾に洩るる三味の音 梶 三秋
- ウ
- 一 新走提げて急ぐは誰ならむ 笑 晩秋
- 二 象牙の塔にダイアナの靴 素蘭 雑
- 三 この命世紀の恋に賭けまする ぼくる 雑
- 四 焼けぼつくいがひとつ増えたり 重陽 雑
- 五 寝言までつぶやきとなりツイッター 悦子 雑
- 六 揺れて浮かれて巴里祭の月 梶 晩夏
- 七 黒船の提督拭ふ額の汗 素蘭 三夏
- 八 羊羹虎屋玉露四杯 敦子 雑
- 九 贈答に縁なくなりて縁遠し 重陽 雑
- 十 神の手を持つ医者の福耳 笑 雑
- 十一 花びらでテラスの埋まる大館 ぼくる 晩春
- 十二 春のスカートほどけやすくて 敦子 三春
- ナオ
- 一 どんたくに借りる時計に針の穴 素蘭 晩春
- 二 朝は連ドラげげの女房 悦子 雑
- 三 クッキーにエスプレッソとモガ気取り 笑 雑
- 四 銀座銀幕シルバー割引 梶 雑
- 五 モノクロのもんぺ姿に涙して 重陽 三冬
- 六 宇宙甚句に氷る妖精 素蘭 晩冬
- 七 金斗雲呼んで悟空の出番です ぼくる 雑
- 八 流れ流れて越える海峡 敦子 雑
- 九 ヴィーナスの心変はりにどたばたと 悦子 雑
- 十 いざや頼りの媚薬一滴 笑 雑
- 十一 月光にはづす仮面と付け黒子 素蘭 三秋
- 十二 リアルト橋に星奔る宵 重陽 初秋
- ナウ
- 一 特製の茸パスタに地のワイン ぼくる 晩秋
- 二 もう捨てやうか百科事典は 敦子 雑
- 三 長命な親父の傘の下で生き 笑 雑
- 四 万物はみな眠りから覚め 悦子 雑
- 五 借問せば朝日に匂ふ山の花 丹仙 晩春
- 挙句 連獅子慕ひ蝶の舞ひ添ふ 梶 三春

二〇二〇年四月十二日 起首
二〇二〇年六月一〇日 満尾

捌 真奈